



新日鉄興和不動産株式会社

新日鉄興和不動産株式会社 様  
[http://www.i3-systems.com/case\\_nipponsteeltowa.html](http://www.i3-systems.com/case_nipponsteeltowa.html)

2012年10月、興和不動産と新日鉄都市開発は経営統合し、「新日鉄興和不動産株式会社」が生まれました。そのタイミングで、業務スタイルの改革を目指し、スマートデバイスを展開することを考えます。その展開を、CLOMO MDMとCLOMO SecuredBrowser、そしてアイキューブドシステムズの「サポート力」と「営業力」が後押ししました。この導入の経緯、そして現状について、総務本部事務システム管理部 システムチームの藤尾 貴史さまにお話を伺いました。



総務本部  
事務システム管理部  
システムチーム  
藤尾 貴史 様

## 導入サービス

CLOMO MDM

CLOMO MOBILE APP PORTAL

CLOMO SecuredBrowser

CLOMO MDM リモートオペレーションサービス (24/365)

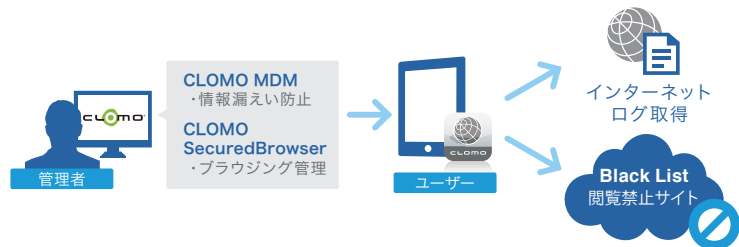
## 情報漏えい防止とセキュアなブラウジングを CLOMO で実現

### 課題

- 業務スタイルの変革にスマートデバイスを使用したいが、情報漏えいは避けたい
- 業務に関係のないサイトへの制限をかけたい

### 解決方法

- CLOMO MDMのリモートワイプ、ロック機能と24時間365日対応のリモートオペレーションサービスで安心
- CLOMO SecuredBrowserの閲覧ログ取得機能とブラックリスト機能で管理



目的をひと言で言えば  
『業務スタイルの変革』。  
iOSならば展開もしやすい

### ー iPhone、iPadを導入した経緯を教えてください。

**藤尾さま：**ひと言で言えば、「業務スタイルの変革」です。当社のさらなるビジネスの展開ということで、スマートデバイスを活用していけないかということから始まりました。その最初のステップは、社内のIP電話や、社内ネットワークの利用をiPhone、iPadなどから利用することではないかと考えました。

これには、社内のシステムの更改時期も関係しています。まず、社内のIP電話システムが6年経ち、更改を迎えまし

た。更改にあたり、iPhoneを社内のIP電話の一つとして利用することを検討しました。

同時に、ネットワーク機器の更改時期も迎えていました。ネットワークの入れ替えにおいても、社外からの接続の拡張を行なうため携帯性に優れたタブレット端末であるiPadも選択肢に上げました。

仮想デスクトップ機能、ペーパーレス会議機能をスマートデバイスでも使えないかということも考えました。

### ー いつごろから新システムの検討を？

**藤尾さま：**2011年11月ごろから、仮想デスクトップ導入について本格的な検証を開始しました。また、IP電話、ネットワーク更改の検討も2012年2月から

## 企業情報

- ・ 1997年3月24日 設立  
(創業1952年10月15日)
- ・ 資本金:198億円(2012年10月1日時点)
- ・ 不動産の売買、仲介、鑑定、コンサルティング
- ・ 従業員654名(2012年10月1日時点)
- ・ <http://www.nskre.co.jp/>

検討を開始。2012年10月会社合併タイミングに合わせて推進してきました。

#### ー 仮想デスクトップの導入についてお聞かせください。

**藤尾さま：**仮想デスクトップ導入では、ノートPC、デスクトップPC、そしてiPadの3つの端末を検証機として数台ずつ用意し、まずそれぞれを社内各部署に使ってもらい、どの機種にすべきかの要望を確認しました。この結果、ほとんどの意見は、社内の業務（特に、Excelによる表計算など）をiPadでこなすことには限界があるということで、ノートPCかデスクトップPCがよいという結果でした。

iPadについては、社外からセキュリティを確保しつつ社内環境に接続して活用できるよう、展開しようとしているところです。

#### ー iPhone、iPadの導入数をお聞かせください。

**藤尾さま：**現段階での台数は、iPhoneは150台、iPadは25台です。iPhoneは主に営業担当に配布しています。

#### ー iPhone、iPadの管理はどのように行っていますか？

**藤尾さま：**iPhoneのようなスマートデバイスは、電話としての側面と、ITシステムとしての側面があります。現時点

ではITシステムとしての部分は私たち事務システム管理部が、電話としての部分は総務部が管理しています。そのため、総務部と事務システム管理部が密に連携しながら管理しています。

マルバツの機能比較表では読み取れない、CLOMOが選ばれた本当の理由

外部から社内環境への接続機器にはMDMは“必須”。決め手は24時間365日サポートと営業対応の速さ。それはアイキューブドシステムズにしかなかった

#### ー スマートデバイスを使う上での、MDM製品等の選定経緯をお聞かせください。

**藤尾さま：**社外使用を想定したiPhoneの利用を考えたときに、MDMは必須と考えました。海外の製品を含め、さまざまな会社でMDMの情報をヒアリングし、また、MDM関連のセミナーに参加し情報を収集しましたが、信頼関係のあるキャノンマーケティングジャパン株式会社経由でアイキューブドシステムズのCLOMOを紹介いただきました。

アイキューブドシステムズの最初の印象は、営業の方々のスピードでした。問い合わせの対応が非常に速く、これが大きなポイントでした。製品は日本製であ





り、当然ながらすべての画面が日本語化されているというのも安心でした。

さらに、24時間365日のワイプ・ロックのサポートサービスが提供されていることが決め手でした。情報漏えいを避けるため、製品選定においては、紛失したときにいつでもワイプ・ロックがかけられることが条件でした。

こういうスマートデバイスを紛失する、というのは得てして夜間であることが多いと思っております。そのようなタイミングでも、連絡すればワイプ・ロックがかけられるというのは選定の大きなキープポイントでした。iPhoneを配布した社員には、ワイプ・ロックサービスの連絡先をメモするように指示しています。休日・夜間にiPhone紛失と同時に、社員からワイプ・ロックの連絡をすることで、紛失における情報漏えいを防げると考えています。

正直にいいまして、MDM製品は各社とも大きな機能の差はないと考えています。製品資料を見ても、パンフレット上の差はないように見えます。アイキューブドシステムズのCLOMO MDMを実際に検証し、まったく問題ないと判断しました。限られた期間の中では最適な選択をしたと考えています。

#### ー CLOMO MDM のどの機能を評価していますか？

**藤尾さま：** iOSの仕様なので仕方がないのですが、OSのアップデート情報を勝手に送りつけてくるということがあります。インストール可否しか選べないため、利用者が誤ってアップデートを行ってしまう可能性があります。これは運用でのカバーができない部分ですが、CLOMO MDMを利用すれば、アップデートした利用者の確認ができます。CLOMO MDMではiOS 6への対応が若干遅れたのが残念ですが、今後はぜひ、OSのアップデート追従にはタイムリーに対応いただければと思います。

また、iOSにはリセットの機能があります。これを実行してしまうと、キッティングした内容がすべて消えて、まっさら

な状態に戻ってしまいます。CLOMO MDMが導入されていれば、リセットされてしまったことを把握でき、利用者に確認を取ることができるのが大きな利点です。現状、CLOMO MDMを使ってAppStoreを表示させないプロファイルを配布することにより、制限をかけています。iOSのリセットやiTunesからのバックアップを戻すことで、アプリインストールが自由に可能になってしまうのですが、認めていないアプリがインストールされたとしても、CLOMO MDMよりタイムリーにメールが届き、即座に把握することが可能です。現在は「CLOMO MOBILE APP PORTAL」を採用し、事務システム管理部が許可したアプリを並べた社内専用のポータルサイトを作っています。アプリのインストールをコントロールする機能も重要です。

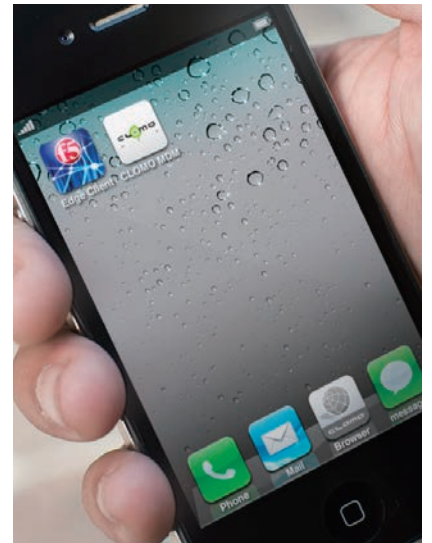
なんでもできるブラウザではなく、記録が取れるブラウザを

CLOMO SecuredBrowserならば、閲覧ログが取得できる。  
これが抑止力として働く

#### ー 今回、CLOMO SecuredBrowserを選定した経緯をお聞かせください。

**藤尾さま：** iPhoneを配布したわけですが、このデバイスは、今までのフィーチャーフォンと違いブラウジング、メール、ゲームまでなんでもできてしまいます。例えばブラウザであるSafariを使えば、どんなサイトでも見られてしまいます。社内であればファイアウォールである程度フィルタをかけられ、仕事に関係のないギャンブルやアダルトサイトを見られないようにできます。しかし、iPhoneですと社外でも使うわけですから、なんらかの制限が必要と考えていました。

スマートデバイスにセキュアなブラウザがあれば、ホワイト/ブラックリストでこちらが決めたサイトのみに接続できるよう、コントロールができます。CLOMO SecuredBrowserを選択したの



はそれが理由でした。ある程度のログが取得でき、閲覧サイトをチェックすることも選定理由の1つでした。

今回、iPhoneを配布するにあたり、CLOMOMDMとCLOMO Secured Browserをインストールした状態でスタートしました。最初は、CLOMO Secured Browserにホワイトリストでごく限られたサイトのみが見られるように設定したのですが、利用者からの様々な意見や希望が強く、徐々に、閲覧範囲を解放していく形で対応しています。現在では一部のサイトをブラックリストとして閲覧できないようにした上で「閲覧ログを取得している」ということを利用者に通知し、解放度合いを高めました。閲覧ログを取ることはSafariではできないことなので、これを抑止力として利用しています。

CLOMO SecuredBrowserを利用して、パブリッククラウド型のグループウェアに接続し、カレンダーやメールを見ることになります。従って、CLOMO Secured Browserを起動すると、グループウェアのログイン画面が表示されるイメージですね。SafariについてはCLOMO MDMの機能を利用し、AppStoreと同様、表示させないプロファイルを配布し、制限しています。

これから始まる、  
スマートデバイスによる  
業務スタイルや営業スタイルの変革

スマートデバイスがあれば、海外出張時でも、手軽にいつでもどこでも、PCを開く手間もなく、社内環境と同じように使える。昔だと考えにくいこと

ー 現時点での利用者の声はいかがでしょうか。

藤尾さま：概ね好評価を頂いております。外出先でもグループウェアが見られるようになったことは大きいです。海外出張時でもiPhone、iPadを使えば国内と同じように使えるのは、昔だと考えにくいことでした。

ー 利用者が個人で持つデバイスを企業が利用する、BYOD (Bring Your Own Device) についてはどのようにお考えでしょうか。

藤尾さま：セキュリティのことを考えると、やはりまだ時期尚早だと考えています。システム管理側としてはいい仕組みであると思うものの、社員の私物デバイスに企業側の情報を入れ、紛失したときにすべてをワイプできるかという点、おそらくあらかじめ誓約書などを取り交わさなければ実現は難しいでしょう。

例えば、スマートデバイスでも仮想環境の導入が進み、私物デバイスの中にある企業側のバーチャルマシンだけきれいにワイプができる技術が浸透し、ある程度の評価が出てこない、導入は難しいと考えます。

ー スマートデバイスの利用において、今後の展開はどのようにお考えですか？

藤尾さま：iPhone、iPadともに、社内展開の状況にもよりますが、台数を増やしていく予定です。いまのところは内線/外線電話やグループウェアのツールとして利用しているiPhoneですが、さらなる展開についてはさまざまな意見を聞きながら改善していければと思っています。

2012年2月から1年間、スマートデバイス活用のためのシステム統合やインフラ整備を行ってきました。今後、評価を行いつつ、利用者からのフィードバックを元に改善と本格活用が今後具体的に始まります。我が社の業務スタイル、営業スタイルの“変革”を、スマートデバイス利用によって提案していければと考えています。

その他導入事例はこちら ▶ <http://www.i3-systems.com/case.html>



CLOMO 全製品 30 日間無料トライアル実施中

<http://www.i3-systems.com>

お問い合わせ先